

「がん」で苦しむ人を 一人でも減らしたい

特集

たばこをめぐる問題

— がん予防と国家財政のあいだで —
秋田 弘俊 氏（北海道大学名誉教授）

Question & Answer

余命の予測とその過ごし方について
北海道の肺がんプロジェクトについて
免疫チェックポイント阻害薬による副作用について

ひとくちオピニオン

札幌がんセミナーの未来への挑戦のために
まだ足りないがん征圧運動
AIは人間社会に何をもたらすのか？
未来を変える一歩



札幌がんセミナーとは？

第44回札幌国際がんシンポジウム案内
第40回冬季がんセミナー報告
市民がつくる 春のがんセミナー2026報告
インセンティブ・ファンド報告
ご協力に感謝 ほか

「がん」の問題を解決するため、
様々な活動をしています

内閣府所管 公益財団法人
札幌がんセミナー

Since 1981

「がん」で苦しむ人を 一人でも減らしたい

特集 3

たばこをめぐる問題

ーがん予防と国家財政のあいだでー

秋田 弘俊 先生 (北海道大学名誉教授)

Question & Answer 5

余命の予測とその過ごし方について

石谷 邦彦 先生 (東札幌病院)

北海道の肺がんプロジェクトについて

磯部 宏 先生 (KKR 札幌医療センター)

免疫チェックポイント阻害薬投与による特徴的な副作用について

峯村 信嘉 先生 (三井記念病院総合内科)

ひとくちオピニオン 8

札幌がんセミナーの未来への挑戦のために

まだ足りないがん征圧運動

AI は人間社会に何をもたらすのか?

未来を変える一歩

不健康寿命について考える

札幌がんセミナーとは? 活動紹介 11

第 44 回札幌国際がんシンポジウム案内

第 40 回札幌冬季がんセミナー報告

市民がつくる 春のがんセミナー2026 報告

インセンティブ・ファンド報告

がん教育の出前授業

がん相談 / 健康増進活動表彰

新役員紹介

ご協力に感謝

この冊子の購読ご希望の方は <https://forms.gle/9oPyz4kzVnQTuPSi7>
または右の QR コードからご登録ください (登録無料)



また、バックナンバーはこちらからご覧いただけます



特集

たばこをめぐる問題

－ がん予防と国家財政のあいだで －

我が国では、年間約 19 万人が喫煙に起因すると推計される超過死亡によって命を落としています（図、文献 1）。喫煙者本人の喫煙による死亡のみを対象とした数字ですので、受動喫煙の影響は含まれていません。たばこ消費量そのものは長期的に減少傾向にあるものの、過去から現在に至る長期間の喫煙曝露の蓄積と人口の高齢化により、喫煙関連疾患による死亡数は依然として高い水準にあります。

喫煙は肺がんの最大の原因であるのみならず、食道がん、膵がん、膀胱がん、腎盂・尿管がんなど多臓器にわたる発がんの主要因です。さらに、脳卒中や虚血性心疾患といった循環器疾患、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、糖尿病など、世界保健機関（WHO）が対策対象としている非感染性疾患（NCDs）の重要なリスク因子でもあります（図、文献 2）。すなわち喫煙は、「予防可能ながん死亡」の最大の要因の一つであると同時に、国民の健康寿命を大きく損なう因子でもあるのです。

欧米諸国の経験が示すように、たばこ消費を減少させることによって、がんをはじめとする喫煙関連疾患による超過死亡、医療費負担、経済的損失を着実に減少させることが可能です。予防介入の効果が明確に示されている領域であるにもかかわらず、我が国における対策の進展は必ずしも十分とは言い難いのです。

『健康日本 21（第二次）』（2013 年度－2023 年度）では、成人喫煙率の目標値を 12% と設定しました。しかし、厚生労働省の 2023 年「国民健康・栄養調査」によれば、喫煙率は 15.7%（男性 25.6%、女性 6.9%）であり、目標は達成されませんでした。この結果を踏まえ、『健康日本 21（第三次）』（2024 年度－2035 年度）において

も、喫煙率の目標値は引き続き 12% と設定されています（文献 3）。目標の継続は重要ですが、実効性のある施策の強化が不可欠でしょう。

たばこをめぐる問題は、健康問題のみならず社会経済的側面も存在します。わが国では、財務省および日本たばこ産業株式会社を中心とした制度的枠組みのもと、たばこ製造・販売に関わる産業構造が形成されてきました。たばこ税は国税および地方税を合わせて年間約 2 兆円の税収を長年維持しており、国家財政において一定の位置を占めています。この規模は決して小さくありません。

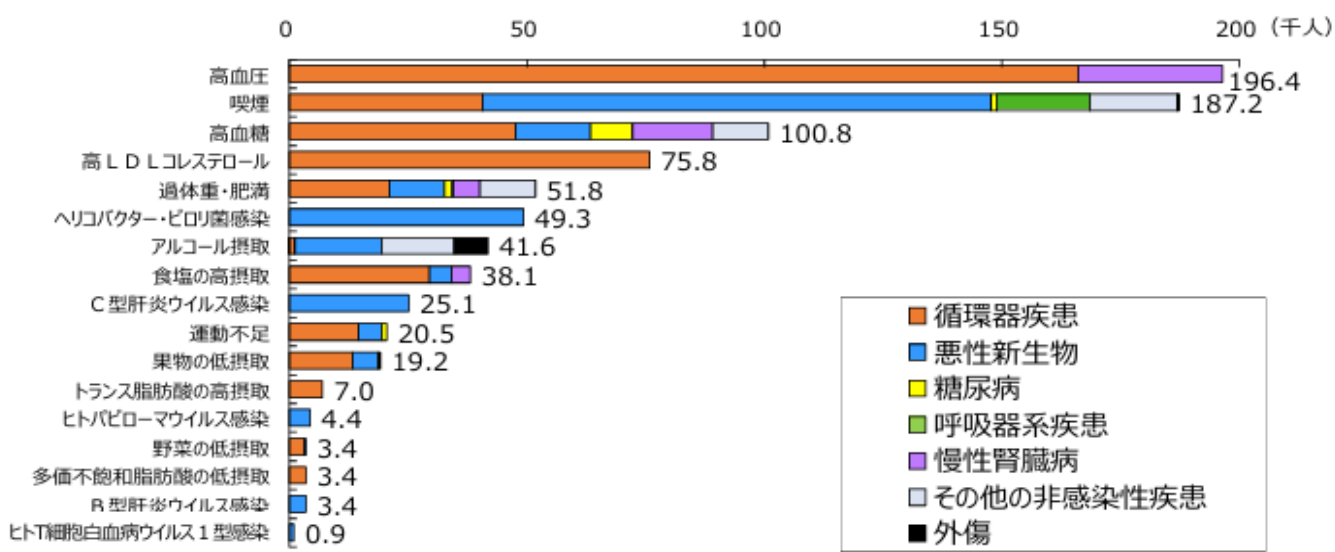
一方で、喫煙関連疾患に伴う医療費や労働損失、介護費用などを含めた社会的コストは、税収と対比されるべきものです。喫煙率が徐々に低下する中で、たばこ税率の引き上げは販売価格の上昇を通じて喫煙行動に影響を与え、喫煙率低下の一因となってきたとみることもできます。しかし同時に、公衆衛生上の目標と財政的安定性とのあいだには、構造的な緊張関係が存在している可能性も否定できません。

がん医療の現場では、喫煙が原因のがん患者と日々向き合っています。分子生物学的研究は、たばこ煙に含まれる多数の発がん物質が遺伝子変異を蓄積させ、慢性炎症や酸化ストレスを介して腫瘍形成を促進する機序を明らかにしてきました。喫煙によるがんは偶発的なものではなく、明確な科学的因果関係に基づく「予防可能な疾患」なのです。



図. 我が国における危険因子に関連する非感染性疾患と外因による死亡数

(注) 日本における令和元（2019）年の非感染性疾患と障害による成人死亡（対象 127 万人）について、喫煙・高血圧等の予防可能な危険因子別に死亡数を推計したもの



資料 : Nomura S, et al : Lancet Reg Health West Pac. 2022 ; 21 : 100377

注 : 平成 19（2007）年との比較のため、図表 I - 1 - 16 と共通の危険因子のみを表示

* 出典 : 健康日本 21（第二次）最終報告書、第 4 章「21 世紀の健康づくり運動全体としての評価と次期国民健康づくり運動プランに向けての課題」、図 I-1-15、476 ページ、厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会 健康日本 21（第二次）推進専門委員会、2022 年 10 月）

国家として、予防可能な死亡をどこまで減少させる責務を負うのか。税込と引き換えに見える超過死亡を、社会はどのように評価すべきなのか。財政的持続性と国民の健康増進は、本来対立する概念ではないはず。喫煙率のさらなる低下は、短期的には税込減を伴う可能性があるとしても、長期的には医療費削減と生産性向上を通じて社会全体の利益につながるはず。

がん予防の最も確実な手段の一つが喫煙対策であることは、科学的に疑いようがありません。医療者、研究者、政策担当者、そして市民が、この事実をどのように共有し、どのような社会を選択するのかが問われています。喫煙をめぐる問題は、単なる嗜好の問題ではなく、生命の価値と社会の在り方を映し出す鏡なのです。

<文 献>

文献 1. 健康日本 21（第二次）最終報告書、厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会 健康日本 21（第二次）推進専門委員会、2022 年 10 月。

文献 2. WHO Noncommunicable diseases. <https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/noncommunicable-diseases>

文献 3. 健康日本 21（第三次）推進のための説明資料、2-1 生活習慣の改善、(5) 喫煙、52-55 ページ、厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会 次期国民健康づくり運動プラン（令和 6 年度開始）策定専門委員会 歯科口腔保健の推進に関する専門委員会、2023 年 5 月。

(北海道大学名誉教授 秋田弘俊)

Question & Answer

余命の予測とその過ごし方について

Q 『もう手の施しようがありません、余命半年です』。がんに罹った場合、手の施しようの有る無しに関わらず、『余命宣告』を受ける場合があります。

この『余命〇か月とか〇年』の期間はどのように予測されているのでしょうか？

また、余命宣告された際には、患者さんやその家族はどのように過ごすのがよいでしょうか？

A 余命の予測は、臨床所見（機能状態〔Performance Status〕、体重減少、食欲不振など）、検査データ（炎症マーカー、肝・腎機能、腫瘍マーカー、LDH など）、疾患の特性やこれまでの経過、そしてしばしば臨床医の経験的判断を組み合わせで行われます。疾患ごとに特徴があり、固形がんでは機能低下が比較的ゆっくり進行する一方、血液悪性腫瘍では終末期まで日常生活が保たれ、突然悪化することもあります。そのため、同じ「余命半年」という言葉であっても、その意味合いは大きく異なります。いずれにしても、余命の予測はあくまで確率的なものであり、個々の患者さんによるばらつきが大きいことを理解しておく必要があります。

余命を伝える行為の意義は、単なる情報提供にとどまりません。それは、患者の自己決定を支え、今後の治療やケア、終末期の過ごし方を共に考えるための出発点です。哲学的に言えば、これは「人間の尊厳」、すなわち「自律」を担保する行為であり、医師が真実を伝えることで、患者が自らの価値観に基づいて人生の選択を行えるようにすることを意味します。

ただし、「尊厳」は特定のケア技術によって回復されるものではありません。人が語り、理解され、認識主体として扱われる関係性そのもの

の中で、常に前提される価値です。したがって、医師によるいわゆる「余命宣告」（この言葉自体も必ずしも適切とは言えません）は、単に数字を伝える行為ではなく、「私はあなたと共に残された人生を歩み、あなたの自律を支援します」という宣言であるべきです。残念ながら、医療現場ではこの認識が十分に共有されていない場面があるのも現実です。

実際に余命を告げられた際の過ごし方としては、①自分が大切にしたいこと（価値観）を整理すること、②家族や医療者と希望や優先事項を共有すること、③痛みや不安などの症状を適切に管理すること、④可能な範囲で「しておきたいこと」（会いたい人に会う、生活環境を整える等）を計画することが重要です。医師には、データと不確実性を正直に伝えつつ、支え続ける姿勢を求めてください。必要に応じて、緩和ケアチームや相談員の支援を早期から受けることも勧められます。

脚注

「予後（よご）」は、病気の将来的な経過や見



通し全般を指す言葉であり、「治りやすさ」や「経過の質的側面」を含みます。一方、「余命（よめい）」は、あとどれくらい生きられるかという時間的な予測を指し、「何か月・何年」という量的側面が強い概念です。終末期医療の現場では、

「予後」が「余命」の意味で用いられることもあるため、医師が患者に説明する際には、その意味を確認することが重要です。

（東札幌病院理事長 石谷邦彦）

北海道の肺がんプロジェクトについて

Q 北海道では肺がんによる死亡率を減少させるために「肺がんプロジェクト」を始めるといふニュースを拝見しました。このプロジェクトを企てることになった経緯と具体的な内容をお聞かせ願います。

A 北海道は残念ながら、肺がんによる死亡率が全国的に見て非常に高い状況が続いています。背景には、全国トップクラスの喫煙率や、全国最下位レベルの検診受診率といった課題がありますが、さらに深刻なのは治療成績そのものが全国最低レベルにあるという厳しい現実です。長年肺がん診療に携わってきた私自身、「喫煙や検診未受診が問題であり、我々医療者にはどうしようもない」とどこか諦めていた部分があったのも事実です。しかし治療成績も悪いのだという現実には、患者さんの背景だけでなく、我々医療提供側の体制や意識にも、改善の余地があるということ突きつけられました。

北海道がん診療連携協議会から「北海道の肺がん診療はこのままで良いのですか」という問いに対し、長年この道に携わってきた臨床医として、大きな悔しさとともに「せめて最下位を脱却し、道民の命を守らなければならない」という強い思いを抱き、このプロジェクトを立ち上げました。

肺がん 5年純生存率

	男	女	全体
全国	34.8%	49.3%	39.6%
北海道	31.1%	41.6%	34.8%

全国がん登録 5年生存率報告 2018年（厚生労働省）
予後追跡期間 2018年1月1日～2023年12月31日

本プロジェクトの目的は、特定の病院に患者さんを集約することではなく、地域全体の診療力を「底上げ」することにあります。具体的には、道内のがん診療連携拠点病院等から実際の診療データを持ち寄り、例えば「早期（Ⅰ期）であれば手術」「局所進行期（Ⅲ期）であれば放射線治療の併用」といった、医学的に推奨される「標準治療」が、どの地域・施設でも確実に行われているか検証します。施設毎の課題を自ら発見し自ら改善し、互いに学び合うことで、道内のどこにいても質の高い治療が受けられる体制を構築していきます。

昨年開催したワークショップでは、多くの専門医がこの現状に危機感を持ち、連携への熱意を示しました。この取り組みは、今日明日で結果が出るものではありません。しかし、5年、10年先を見据え、施設間の垣根を越えた「北海道モデル」の診療体制を築き上げることで、道民の皆さまの生存率と生活の質（QOL）を必ず改善させていく決意です。

（KKR 札幌医療センター病院長 磯部宏）



免疫チェックポイント阻害薬投与による 特徴的な副作用について

Q がん治療の選択肢の一つとして脚光を浴びてきている免疫チェックポイント阻害薬ですが、従来のがん化学療法薬にはみられなかった有害事象（副作用）が起こることがあると聞きました。免疫チェックポイント阻害薬投与による特徴的な副作用にはどのようなものがありますか。またこの治療法を選択する際に患者として留意すべき点はありますか？

A 免疫チェックポイント阻害薬治療は患者さんご本人の免疫を利用する形でがんを治療する、これまでのがん治療とは全く異なるメカニズムを持っているお薬です。すなわち、がん細胞が体内で生き延びるために免疫系に勝手にブレーキをかけているのですが、そのブレーキ=免疫チェックポイントを踏み込ませないように阻害しています。がん細胞に対する免疫だけが活発になればいいことではないのですが、それ以外の免疫も過剰に活発になってしまう結果、体のあちこちで（がん以外の）自分の臓器を自分の免疫系が攻撃してしまうことが起きてしまいます。その結果起きる副作用のことを免疫関連有害事象（英語の immune-related Adverse Events の頭文字をとって irAE と呼びます）と呼びます。

頻度の高い irAE には皮疹（皮膚に赤い発疹またはかゆみができます）や下痢、甲状腺の炎症などがあります。患者さん自身が症状に気づきやすい、または外来で行われる血液検査で異常が見つかりやすい副作用も多いのですが、症状も検査もあいまいとなりうる特徴的副作用に注意が必要です。

注意すべき副作用の一つに下垂体炎（かすいたいえん）というものがあります。下垂体とい

う脳の奥にある小さな臓器は生命の維持・調節に必要な様々なホルモンを作り出す司令塔の働きをしています。そこに炎症がおきてしまうといろいろなホルモンを作り出せ

なくなってしまうのですが、一番問題となるのはステロイドホルモンです。体内でステロイドホルモンが作られなくなったときに一番出てくる症状はだるさ及び食欲の低下です。元々だるさがあるのよ、という方もいらっしゃると思います。けれどそれとは種類の違うだるさがある日から急に起こってきた場合には要注意です。決して我慢なさらず病院に連絡を取っていただくことが大切です。その場合の治療は足りないホルモンを即座に補充することとなります。

下垂体炎以外にもいろいろな副作用があり、がんの治療を順調に続けるために副作用の早期発見がとても大切です。だるさ以外にご注意いただきたい症状は息切れ、および熱です。この3つの症状の一つでも気づきましたら知らせていただくようお願いいたします。

（社会福祉法人三井記念病院総合内科科長
峯村信嘉）



ひとくちオピニオン

札幌がんセミナーの未来への挑戦のために

「札幌がんセミナー」は小林博先生が創設され、長年様々な素晴らしい先生たちが「がん」の基礎、治療、予防、未来について関わって努力されてまいりました。4年ほど前に小林先生から自身が高齢なので理事長にと私に声がかかりました。医学の世界とは全く関係の無い経済界に身を置いておりましたので、固辞しましたが「札幌がんセミナー」の財務を中心に見て欲しいとの事、廻りにおられる皆様に助けて頂きながらと決断致しました。

理事、評議員の皆様は凄い方ばかりで、場違いの思いが更に強くなりました。

事務所の事務処理は、一人しかいない事務職員がほぼ全てにわたり処理をしております。小林先生と、二人の監事に意見を頂きながらの処理です。しっかり対応されていると思います。

問題は持っている資産の運用です。債券、株、投資信託、様々ありますが、リスク回避をしながらハイリターンを求めなければなりません。資産運用委員会も開催し皆さんの意見をお聞きしながら決定をしております。

戦争等の世界情勢、為替、株価、などを勘案し判断しております。

また沢山の皆様から、毎年多額の寄付を頂戴しております。感謝しながら丁寧に「札幌



がんセミナー」の活動をお知らせしてまいります。

「札幌がんセミナー」の活動を、しっかり正しく市民に理解して頂き、関わって頂いております多くの先生が更にがんの研究に積極的に取り組めるように支援体制を強化してまいります。

国民の命を守る為に、今後ともしっかりと活動してまいります。

((公財)札幌がんセミナー理事長/(株)ほくていホールディングス取締役会長 加藤欽也)

まだ足りないがん征圧運動

私は昭和39年3月北海道大学医学部を卒業し、北海道大学医学部大学員：北大第3内科学教室員、北大第3内科学教室医局員、北大医学部教官、一時歯学部教官等大学での教育と、その後医学部同窓会等多くの医学部関連の仕事等をこれまで続けてきました。

その関連で札幌がんセミナーの一員として長い間参加させていただき今日に至っています。

私が医学の道に進んだ頃は、がんといえば全く絶望的な疾患ととらえられていましたが、その後の医学の目覚ましい発展でがんに対する意識は大きく変わりました。

しかし、完全に対応し尽くしたというまでには至っていません。完全征服までは多くの



時間と努力が必要です。

札幌がんセミナーの役割はこれからも続くでしょう。頑張りましょう。

((公財)札幌がんセミナー評議員会副議長/
北海道医師会前会長 長瀬清)

AI は人間社会に何をもたらすのか？

AI に関する新聞記事の『科学論文 AI 乱の「毒」』というタイトルを見て、一瞬 anti AI の人が書いたものと思ったのですが、内容は、普通に science における AI 利用の現状を示したものでした。思うのですが、このタイトルの示すように、AI を何か危険な侵入者のように取り扱っている記事が結構ありますが、新しいものに対する日本人の警戒感、島国に住む人間としては仕方ないところもあるのですが、science も含めた日本の各業界の一步遅れは、最近通常化してきて、それを良しとするムードも若い人たちにまで広がっています。



小生は国粹主義者ではないつもりですが、我が国の国際社会における二流化は、国民にしみ込んできた感じで、明治維新、第二次世界大戦敗戦時の国民の気概はどこへ行ったのでしょうか。

AI の価値付けとしては、人間の英知の最高傑作として位置付けるべきものだと思います。IT の発達によって世界は変わったわけですが、IT の技術の一つとして AI は開発されたわけで、IT が世界を変えたという文脈の進化系として、AI による世界の飛躍があります。

実業界では、すでに日本のそれは相当に遅れてはいますが、近時どこを見ても、AI、AI だらけです。後れを取ってしまった焦りの様相が見て取れます。

良いことかどうかは判然としませんが、AI 関係の事の進み具合はやたらと早く、月単位、物によっては週単位で変わっていき、follow するのが大変です。

最近 AI について最も強く感じていることは、人間の知能進化による技術革新は、AI を含めてものすごいスピードで進んでいると思いますが、それを扱う人間の humanity は、驚くほど劣悪で、新技術が種々の方向で悪用されている様を見る事が多いということです。これでは何のための新技術かと思います。AI についてもその軍事利用の競争が、AI の最も hot な議論として進んでいるようで、AI 礼賛を言い続けてきた自分が甘かったと反省しきりです。

((公財)札幌がんセミナー評議員会副議長 /
老健施設紅寿の里施設長 仙道富士郎)

未来を変える一步

タイ・ラオスなどのメコン河流域で環境保全教育に携わらせていただく機会をいただきました。その中で大切なことに気づきました。社会を本当に変えるのは、知識の多さではなく、人々の行動変容だということです。そし



て今、強く感じています。がん予防も、教育も同じだと。どれほど正しい情報があっても、検診に行く一歩、生活習慣を見直す一歩、その「行動」がなければ未来は変わりません。環境も、健康も、未来も、そして平和も守る力は特別な誰かではなく、私たち一人ひとりの中にあります。今日の学びが明日からの一歩につながり、その積み重ねが、大切な命と



タイ・ラオスの夕日

家族、そして社会を守る力になることを願うこの頃です。

((公財)札幌がんセミナー評議員 / ロータリー財団地域コーディネーター補佐 (第1地域) 出村知佳子)



ゴミで汚れているメコン川

不健康寿命について考える

健康寿命を全うしたのち、病むことなくすぐにあの世に旅立つことができれば、これは最高の好運というものです。でもこの好運を果して自分のものにすることができるかどうか？ 残念ながら多くの場合、高齢化とともにいつか健康を害し、不健康な人になってしまう可能性が大いにあるのです。

基本的には万人、遠い将来のことをあまり考えようとしません。いつまでも若いときのように元気一杯で働き続けられると思っているのです。

「不健康寿命」というのはまだ馴染みの薄い言葉かもしれませんが、長生きしても健康

ではない、つまり不健康な状態の続く期間のことをいいます。

これからは百歳までも元気に生きようと健康寿命を望むのは当然です。でも、むしろ不健康寿命にこそもっと深い関心をもって対応していただきたい。お気に入りのお話だけでなく、ときには重いお話にも耳を貸していただきたい。



((公財)札幌がんセミナー相談役 小林博)

(公財)札幌がんセミナーの主な活動

「がん」の問題を解決するため 様々な活動をしています

1. 札幌国際がんシンポジウム

委員長 畠山 昌則 先生
(微生物化学研究所部長/東京大学名誉教授)

1981年以降毎年
夏季の2、3日間英語
で討論



4. 小中高生へのがん教育

委員長 湯浅 資之 先生 (順天堂大学特任教授)

子ども達へのがん教育教材の制作、健康教育支援



2. 札幌冬季がんセミナー

委員長 秋田 弘俊 先生 (北海道大学名誉教授)

1987年以降「がん治療などの臨床的、社会
医学的な課題」について日本語で討論



5. 広報誌 The Way Forwardの発行

委員長 浜田 淳一 先生 (北海道医療大学特任教授)

がん研究や治療の最新トピックスをQ&A方式で
わかりやすく紹介した広報誌を年2回発行



3. 市民がつくる春のがんセミナー

委員長 伊藤 利道 先生
(医療法人社団美園いとう内科院長)

2010年から市民の「行動変容」を促すこと
を最大の目標として毎年春に開催



6. がん相談

がん相談は、公益財団法人札幌がんセミナーのボ
ランティア活動の一つとして1991年4月にスタート
あらかじめ電話 (011-222-1506) で日時の予
約ののち、財団事務所に来いただき専門医による
面談。1件あたり30分以上 (無料)



公益財団法人札幌がんセミナー 事務局
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6階
TEL:011-222-1506 FAX:011-222-1526
E-mail:scsf-hk@phoenix-c.or.jp
URL:https://scsf.info

第44回札幌国際がんシンポジウム 開催案内

The 44th Sapporo International Cancer Symposium

日 時：2026年7月17日（金）～18日（土）

会 場：グランドメルキュール札幌大通公園（北海道札幌市）

テーマ：がんエピゲノム：次世代の診断と治療へ

Cancer Epigenome: Toward Next-Generation Diagnosis and Therapeutics

代表世話人：牛島 俊和（星薬科大学 学長）

世話人：服部 奈緒子（群馬大学）、鈴木 拓（札幌医科大学）、近藤 豊（名古屋大学）、
金田 篤志（千葉大学）、片岡 圭亮（慶應義塾大学）、内丸 薫（東京大学）、
谷口 浩二（北海道大学）、Wei-Guo Zhu（深圳医科大学）



プログラム：

7月17日（金）

Session 1: Alterations of Epigenomic Regulators in Cancer

Bin Tean Teh (National Cancer Centre Singapore)
Keisuke Kataoka (Keio University)

ASPIRE Special Session

Shinichi Yachida (Osaka University)
Mathieu Lupien (University of Toronto)
Faiyaz Notta (University of Toronto)

Luncheon Seminar sponsored by OHARA
Pharmaceutical Co., Ltd.

Session 2: Frontiers of Epigenetic Therapy in Solid Tumors

Hiromu Suzuki (Sapporo Medical University)
Alfred Cheng (The Chinese University of Hong Kong)
Wei-Guo Zhu (Shenzhen University Medical School)

Session 3: Epigenomic Drug Discovery Using Novel Modalities

Yutaka Kondo (Nagoya University)
Shigehiro Kawashima (The University of Tokyo)

Sweets Seminar sponsored by KEYENCE CORPORATION

Poster Session

7月18日（土）

Session 4: Epigenetic Therapies Targeting the Tumor Microenvironment

Kyoko Hida (Hokkaido University)
Hyun-Soo Cho (Korea Research Institute of Bioscience and Biotechnology)

Session 5: Early Cancer Diagnosis Using Epigenomic Alterations

Young-Joon Kim (Yonsei University)
Toshikazu Ushijima (Hoshi University)

Selected Oral Presentation Session

Luncheon Seminar sponsored by
CyberomiX Co., Ltd.

Session 6: Current Status and Future Perspectives in Hematologic Malignancies

Makoto Yamagishi (The University of Tokyo)
Shinya Kimura (Saga University)

詳細は

<https://pac-mice.jp/sics2026/>



第40回札幌冬季がんセミナー

日時：2026年1月31日（土）
 会場：グランドメルキュール札幌大通公園
 （北海道札幌市）
 代表世話人：辻 靖（国家公務員共済組合連合会
 斗南病院 副院長）
 テーマ：いまがんを考える 2026
 ～多様な選択肢から導く、個々に最適ながん治療とは～
 第40回札幌冬季がんセミナーは、10名の演者を招き
 85名の参加者を得て盛会裏に終了しました。



《プログラム》

ランチョンセミナー（共催：MSD株式会社）
バイオマーカーに基づいた胃癌薬物療法最前線
 演者 室 圭（愛知県がんセンター 副院長）
 座長 辻 靖（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 副院長）



Session I がんゲノム医療
膵胆道癌に対するがんゲノム医療
 演者 高田 弘一（札幌医科大学医学部内科学講座腫瘍内科学分野 教授）
 座長 櫻井 晃洋（札幌医科大学医学部ゲノム予防医学講座臨床ゲノム学分野 客員教授）



がんゲノム医療の現状と展望
 演者 木下 一郎（北海道大学病院がん遺伝子診断部 教授）
 座長 櫻井 晃洋（札幌医科大学医学部ゲノム予防医学講座臨床ゲノム学分野 客員教授）



Session II 食道がん
食道癌のOncological Treatment
 ～過去・現在・未来～
 演者 室 圭（愛知県がんセンター 副院長）
 座長 加藤 達哉（北海道大学病院呼吸器外科 教授）



Session III 薬物有害反応対策
適切なirAEマネジメントのために知っておきたいこと
 演者 峯村 信嘉（社会福祉法人 三井記念病院総合内科 科長）
 座長 宇原 久（札幌医科大学医学部皮膚科学講座 教授）



がん薬物療法に伴う眼障害の早期発見と対処法
 演者 柏木 広哉（静岡県立静岡がんセンター眼科 部長）
 座長 大泉 聡史（国立病院機構 北海道がんセンター呼吸器内科 副院長）



Session IV 医療経済
がん医療の費用と成果の長期的な推移
 演者 埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院 教授）
 座長 平賀 博明（国立病院機構 北海道がんセンター 院長）



特別講演
腹膜偽粘液腫治療の現状と将来
 演者 合田 良政（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター腹膜センター センター長）
 座長 辻 靖（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 副院長）



胃癌腹膜播種に対する腹腔内化学療法
 演者 石神 浩徳（東京大学医学部附属病院外来化学療法部 准教授）
 座長 辻 靖（国家公務員共済組合連合会 斗南病院 副院長）



イブニングセミナー（共催：第一三共株式会社）
Antibody Drug Conjugate (ADC) の基礎と臨床をつなぐ：次世代型個別化医療の時代
 演者 土井 俊彦（国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院 院長）
 座長 秋田 弘俊（北海道大学名誉教授）



第41回札幌冬季がんセミナー 案内

日程：2027年1月30日（土） 12:00～
 会場：グランドメルキュール札幌大通公園
 代表世話人：木下 一郎 先生（北海道大学病院がん遺伝子診断部教授）

詳細は → <https://scsf.info/swcs/>

市民がつくる 春のがんセミナー 2026

日 時：2026年3月28日（土）

会 場：北海道医師会館 8階A会議室（北海道札幌市）

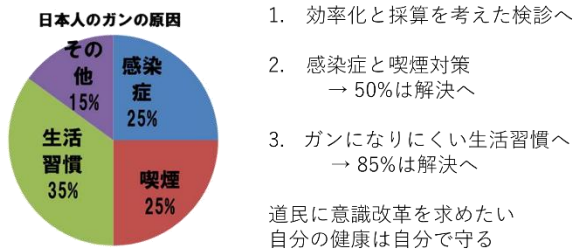
道民性と地理からみた北海道のがんの特徴とは？

晴生会さっぽろ病院内科・消化器内科 河原崎 暢

現在、日本人の死因の第一位はがんで、国民病ともいえます。そのがんも臓器別でみると感染症が原因と分かっている胃がん、肝臓がんは減っていますが、ほかの肺がん、大腸がん、膵臓がんなどは増えてます。また都道府県別によってもがんの死亡率が異なります。

北海道は県別でみるとワースト3位で、全国的に死亡率は最近下がり傾向ですが、上昇している

「北海道のガン対策に 解決策はあるのか」



印象を受けます。

北海道のがん死亡率が高い理由は何でしょうか？喫煙率の高さ、検診率の低さ、長い冬期の運動不足が挙げられます。



検診率を上げる対策として地方の基幹病院の検診部門を充実させて地域の検診を担っていただき、もしがんが見つかったらその基幹病院で治療も兼ね、効率と採算を踏まえた検診を行うべきかと考えます。

最終的にはがん対策は自己責任です。開拓時代のフロンティア精神に戻り、生活習慣の改善、感染対策、禁煙を積極的に行うことが、北海道のがん対策に一番重要と思います。

膵がんとの戦い ～最強のがんにどう立ち向かうか～

北斗病院消化器センター部長 中村 透

膵がんは完全に治すのが難しいがんです。そしていま膵がんが増えてきていますがその理由ははっきりわかりません。早期発見の難しいがんなので予後が悪く、必然的に死亡率も増えます。

当院では、膵がんに対し電磁波温熱療法や高気圧酸素療法を組み合わせる薬物療法の効果を最大限に引き上げる集学的治療を行っています。

とくに膵がんは低酸素状態で活性化するため高気圧酸素療法に期待しています。

また小さながんを発見するために尿中の物質を計ることによって早期にがんを見つけようという尿がん検診も取り入れています。



尿がん検診は実際には尿中エクソソームというのを調べています。これが細胞から細胞に情報を伝達するカプセルのようなもののなかには小さなRNAが含まれています。がんが出す特別なRNAをキャッチし、がんの有無を判断するのです。このRNAは血液中にもありますが尿中の方が簡単に検査できます。

いずれにしても早期発見が大事です。膵がんのリスクのある人は病気になる前に膵がんドックを受けましょう。

北斗病院 病気になる前に検査をしましょう！（先制医療）

膵臓がんの主な症状

- 食欲不振
- 腹痛
- 体重減少

膵臓がんの発症リスク

- 近親者に膵臓がんの患者がいる：約2倍
- 胆汁性肝臓病（胆管炎の病状）：4～5倍
- 糖尿病に罹患している：約2倍
- 喫煙：1.3～3.9倍
- 大腸の癌患：約1.2～1.5倍
- 肥満：1.5倍

膵臓がんは生活習慣病の発症機序（膵臓がん、胆管炎）の中で、遺伝子異常（BRCA1/2遺伝子変異）を合併する方は、膵臓がん発症のリスクが高くなります。

学校の子ども達へのがん教育

「インセンティブ・ファンド」札幌市内の学校で

インセンティブ・ファンドとは、子ども達の自発的なやる気を喚起するための激励金・やる気基金というもので、「“プラスのまほう”健康づくりやる気基金」のサブタイトルを付けて札幌市教育委員会との協力で実施しました。

がんを含む健康や、体力向上を図るためのアイデアを子ども達から引き出し、彼らが自主的に行動するように力付けるためのもので、単なる助成金とは異なります。

各学校の取組

学校名	活動の概要	学校名	活動の概要
三角山小学校	「みんなの健康づくりプロジェクト」と題し、手洗い運動、雑巾がけ運動を実施	大谷地東学校	手洗いスタンプを利用した運動を実施、年度末に5年生へ活動を引き継いだ
信濃小学校	現行のあいさつ運動、なわとび運動を見直し全生徒が健康を意識する活動を実施	美香保中学校	「美中オリンピック」というスポーツイベントを実施し他学年との交流を深めた
新陵小学校	特別支援学級の生徒と一緒に楽しめるスポーツフェスティバルを企画し実施	手稲西学校	地域の方も参加できるスポーツイベントを実施し、運動の楽しさを伝えた

2025年度は小学校4校、中学校2校に支援し、各学校独自に様々な活動を行っていただきました。本年度実施校のうち、美香保中学校、手稲西中学校は昨年に続き2年目の活動を行い、大谷地東小学校は年度の終りに6年生から5年生の引き継ぎを行い、この事業が学校内で継続されている様子をうかがい知ることが出来ました。

「がん教育」の出前授業講師派遣への助成

(公財)札幌がんセミナーでは札幌市保健福祉局ウェルネス推進課と協力し、札幌市内の小中学校、及び高等支援学校で行われるがんの出前授業を支援しています。2025年度、出前授業を行った学校は17校(小学校15校、中学校1校、高等支援学校1校)でした。講師の内訳は医師

9名、看護師3名、がん経験者5名。

出前授業を行った学校からは、「がんという病気について実際に現場で働く人の貴重な話が聞けた」「心と体を大切にすることを学んだ」といった感想が寄せられました。なお、講師謝金の補助は札幌市の予算で行われています。

実施年月日	学校名	講師名(所属)
2025. 7. 3	豊園小学校 6年生 68名	安部樹太朗(医師:北海道大学病院)
2025. 7. 9	ノホロの丘小学校 5年生 67名	柴田直美(がん経験者)
2025. 7. 17	常盤中学校 3年生・特別支援学級全学年 100名	安部樹太朗(医師:北海道大学病院)
2025. 8. 28	駒岡小学校 6年生 15名	安部樹太朗(医師:北海道大学病院)
2025. 9. 10	東苗穂小学校 6年生 35名	石川和代(がん経験者)
2025. 9. 17	芸術の森小学校 6年生 82名	瀧川千鶴子(医師:K KR札幌医療センター)
2025. 10. 8	茨戸小学校 6年生 34名	高橋美徳(がん経験者)
2025. 10. 15	しらかば台小学校 6年生 85名	西田真理(看護師:北海道大学病院)

実施年月日	学校名	講師名(所属)
2025. 10. 22	琴似中央小学校 6年生 76名	牧野綾(医師:市立札幌病院)
2025. 11. 25	西小学校 6年生 144名	国井慎司(がん経験者)
2025. 11. 27	新陵東小学校 6年生 57名	片山勝之(医師:手稲溪仁会病院)
2025. 12. 2	前田中央小学校 6年生 95名	齊藤文子(がん経験者)
2025. 12. 5	美園小学校 6年生 70名	千田ルミ子(看護師:札幌厚生病院)
2025. 12. 9	豊明高等支援学校 3年生 30名	川西亜紀江(看護師:手稲溪仁会病院)
2025. 12. 12	新陵小学校 6年生 70名	小島一(医師:手稲溪仁会病院)
2025. 12. 12	真駒内桜山小学校 6年生 89名	大須賀崇裕(医師:札幌医科大学病院)
2026. 1. 28	盤溪小学校 6年生 17名	原田紘子(医師:市立札幌病院)

がん相談

財団事業の一つに「がん相談」があります。がん患者さん、ご家族からの相談を、事務所にて面談で行っております。がん相談のなかからいくつかを下記に紹介します。

ご本人からの治療に関する相談

Q : 71 歳男性。前立腺がんと診断され、「ある病院で放射線治療を薦められています。ところが、「放射線治療をしたら外科手術は出来ません」とも聞いております。どうしたらいいでしょうか」。PSA は 7.1 とのこと。

A : 「あまり心配したことでもないようですがね。前立腺がんは手術、放射線、ホルモン療法など、そのうちのどれを選択するか、専門家の間でもいろいろ意見が分かれるがんです。ですから手術数が多い病院だからいいというデータだけでは決められません。PSA の値から見てもしばらく様子を見てセカンドオピニオンを調べたらどうでしょうか。ただセカンドオピニオンの病院の先生が手術好きの先生か手術の嫌いな先生かによっても違うかもしれませんね。とにかく落ち着いて考えて下さい」。

ご家族からの相談

最近のがん相談は「相談」というよりは、がんを介して人生を語りあうような場面が多くなってきているように思います。

70 歳代初頭の肺がん（小細胞がん）で治療中のご主人についての相談。奥様の言われるのには、患者さんは病院の治療がよく効いて、現在まったく病人とは思えないくらい元気しております。食欲その他、何の異常もないのですが、既に医師からはステージⅣとの宣告で、最後の日がいつ来るかと心配しているのです。というだけのことで、具体的な質問ではなく、ご夫人として何をすべきかなど、終活に向けての人生の話し合いに終始しました。がん相談もここまで成熟してきたのかと考えを新たにしました。私自身もこのがん相談を楽しませていただきました。

((公財)札幌がんセミナー相談役 小林博)

健康増進活動表彰

札幌市保健福祉局ウェルネス推進課との協力で、長年健康増進活動に尽力し社会に貢献している 2 団体を表彰しました。

表彰された 2 団体のうち、白石地区ネットワーク協議会は地域住民が主体となり、多くの団体と連携しながら地域の様々な課題を解決する趣旨で設立した団体で、町内会・学校等連携し子どもから高齢者まで幅広い年齢層の参加する健康づくりイベントを実施している団体です。

新発寒地区社会福祉協議会健康づくり委員会は健康さっぽろ 21 が提唱されたときに地域で活動するボランティアとし組織として設立。地域の声を聞き、コミュニケーションを大事にしながら、地域住民の健康づくりのためのイベン

ト等を行っている団体です。

これらの団体の活動を介して、健康で病気になりにくい体づくりを目指し、将来の健康長寿を願うものです。



2026 年 1 月 28 日に開催された表彰式の様子

役員改選のお知らせ

(公財)札幌がんセミナーは2026年6月から役員改選になりました。新役員体制を下記にご紹介致します。

(50音順、敬称略)

【評議員】(2026年6月～4年間)

評議員会議長 浅香 正博 (北海道大学名誉教授/カレス記念病院病院長)
 評議員会副議長 石谷 邦彦 (医療法人東札幌病院理事長)
 谷口 直之 (大阪国際がんセンター研究所名誉研究所長/大阪大学名誉教授)
 長瀬 清 (北海道医師会前会長、北海道対がん協会前会長)
 評 議 員 田中 宏 (田中・渡辺法律事務所所長)
 辻 靖 (国家公務員共済組合連合会斗南病院副院長)
 出村知佳子 ((株)ダンテック代表取締役社長)
 日浅 尚子 (前北海道新聞社常勤監査役/Office Prest 代表・著述業)
 平賀 博明 (国立病院機構北海道がんセンター院長)
 真部 淳 (北海道大学大学院医学研究院小児科学教室名誉教授)

【理事】(2026年6月～2年間)

理 事 長 加藤 欽也 ((株)ほくていホールディングス取締役会長)
 副理事長 大谷 喜一 ((株)アインホールディングス代表取締役社長)
 白土 博樹 (北海道大学大学院医学研究院教授/医理工学グローバルセンター教授)
 理 事 秋田 弘俊 (北海道大学名誉教授/社会医療法人孝仁会札幌孝仁会記念病院最高顧問)
 伊藤 利道 ((一社)北海道医師会常任理事/美園いとう内科院長)
 岡田 太 (鳥取大学医学部実験病理学分野教授)
 田中 伸哉 (北海道大学大学院医学研究院腫瘍病理学教室教授、北海道大学医学部長)
 鳥越 俊彦 (札幌医科大学名誉教授/札幌臨床検査センター(株)顧問)
 中田 隆博 (道路工業(株)代表取締役社長)
 畠山 昌則 (微生物化学研究所部長/東京大学名誉教授/北海道大学遺伝子病制御研究所特任教授)
 濱田 淳一 (北海道医療大学看護福祉学部特任教授)
 半田祐二郎 ((株)国際・テクノセンター顧問、臺北醫學大學客座教授 (国際保健學))

【監事】(2026年6月～2年間)

杉下 清次 (札幌中央会計事務所所長)
 山田 明 ((株)北洋銀行常務取締役兼CSO兼CFO)

【相談役】(2026年6月～2年間)

光地 勇一 (札幌中央アーバン(株)取締役会長)
 小林 博 (北海道大学名誉教授、(公財)札幌がんセミナー前理事長)

財団の概要、事業計画、財務諸表などはホームページにて公開しております。

→ <https://scsf.info/scsfinfo/>

また、Facebook、X等でも情報発信をしておりますので、ご覧下さい。



ご協力に感謝

(2025年4月1日~2026年5月15日) (敬称略)

A 運営寄附・賛助会員

法人

(株)アインホールディングス (大谷喜一社長)
(株)玄米酵素 (鹿内正孝社長)
札幌中央アーバン(株) (光地勇一会長)
(株)ムトウ (田尾延幸会長)
(株)モロオ (師尾忠和社長)
(公財)廣西・ロジネットジャパン社会貢献基金 (木村輝美理事長)
岩田地崎建設(株) (岩田圭剛社長)
札幌臨床検査センター(株) (伊達忠應社長)
(株)北洋銀行 (津山博恒頭取)
(株)スズケン (浅野茂社長)
(株)ほくやく (眞鍋雅信社長)
(株)メディセオ (今川国明社長)
キョーリンリメディオ(株) (橋爪浩社長)
(株)ダンテック (出村知佳子社長)
野村證券(株) (八代大輔支店長)
フルテック(株) (古野重幸会長)
(株)北海道銀行 (兼間祐二頭取)
(株)六花亭 (小田文英社長)
(株)アイティ・コミュニケーションズ (石原隆社長)
池田煖房工業(株) (池田薫社長)
石上車輛(株) (石上剛会長)
(株)岩崎 (古口淳士社長)
遠藤興産(株) (遠藤隆三社長)
(株)STV ラジオ (橋本秀樹社長)
(株)北日本自動車共販 (近藤昇社長)
札幌商工会議所 (安田光春会頭)
(株)昭和ビル (倭雅則社長)
新日本通信工業(株) (河村健社長)
税理士法人知野・寺田会計事務所 (寺田昌人代表)
(株)セコマ (赤尾洋昭社長)
中井聖建設(株) (中井靖社長)
(株)藤井工務店 (藤井公人社長)
(公社)ふる里公苑 (高橋敏彦理事長)
ベル食品(株) (福山浩司社長)
北土建設(株) (砂田英俊社長)
(株)北友 (森田武伯社長)
北海道火災共済協同組合 (小林一清代表理事)

北海丸善運輸(株) (紫藤正行社長)
北幹警備保障(株) (秋庭征富社長)
(株)マルゲンビル (佐藤源五郎社長)
(株)MOE ホールディングス (水戸康智社長)

個人

小林 博 (SCS 財団相談役)
半田祐二郎 (SCS 財団理事、(株)国際・テクノセンター顧問)
賀来 亨 (北海道医療大学名誉教授/日本医療大学名誉教授)
武田 治 ((株)MERC)
谷口 直之 (大阪国際がんセンター研究所名誉研究所長/大阪大学名誉教授)
畠山 昌則 (SCS 財団理事、微生物化学研究所部長、東京大学名誉教授)
武市寿美代 (SCS 財団元評議員)
岡田 太 (鳥取大学医学部教授)
阪本 時彦 (元モルジブ在住、東京都在住)

国際シンポジウム助成金・協賛金

(公財)伊藤医薬学術交流財団
(公財)上原記念生命科学財団
南風病院 (公財)三菱財団
(公財)ノバルティス科学振興財団
(株)ILAC アステラス製薬(株)
アストラゼネカ(株) アツヴィ合同会社
アレクシオンファーマ合同会社 (株)エスアールエル
(株)SMC MGI Tech(株)
大塚製薬(株) オーリンクプロテオミクス(株)
(株)CyberomiX シスメックス(株)
セレックバイオテクノロジー(株) タカラバイオ(株)
Twist Bioscience トーデジタルバイオロジー(株)
(公財)中谷財団 日本新薬(株)
ノバルティスファーマ(株) ノボジーン(株)
(株)ビー・エム・エル ファーマエッセンシアジャパン(株)
富士製薬工業(株) 北海道和光純薬(株)
Meiji Seika ファルマ(株) (株)羊土社
和研薬(株)

冬季がんセミナー共催金

MDS(株) 第一三共(株)

当財団の事業は財団基金から生み出る利息と毎年のご寄附によって運営されています。ご理解、ご協力をいただければ幸いです。



B. 基金寄附

法人

(株)ほくていホールディングス (加藤欽也取締役会長)
道路工業(株) (中田隆博代表取締役社長)

個人

黒田 重雄 (北海道大学名誉教授)
羽部 大仁 (歓喜山慧林寺住職、SCS 財団評議員)

他、匿名希望の企業・個人の方からもご寄附を頂戴いたしました。

ご寄附の種類

寄附はすべて税控除の対象となります。

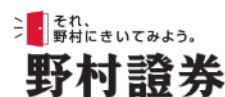
- A. 運営寄附 個人、法人問わずいただくご寄附はその年度内に使用させていただきます。
- B. 基金寄附 寄附は基金のなかに組み入れ、直接使用することはありません。利息のみ使用させていただきます。

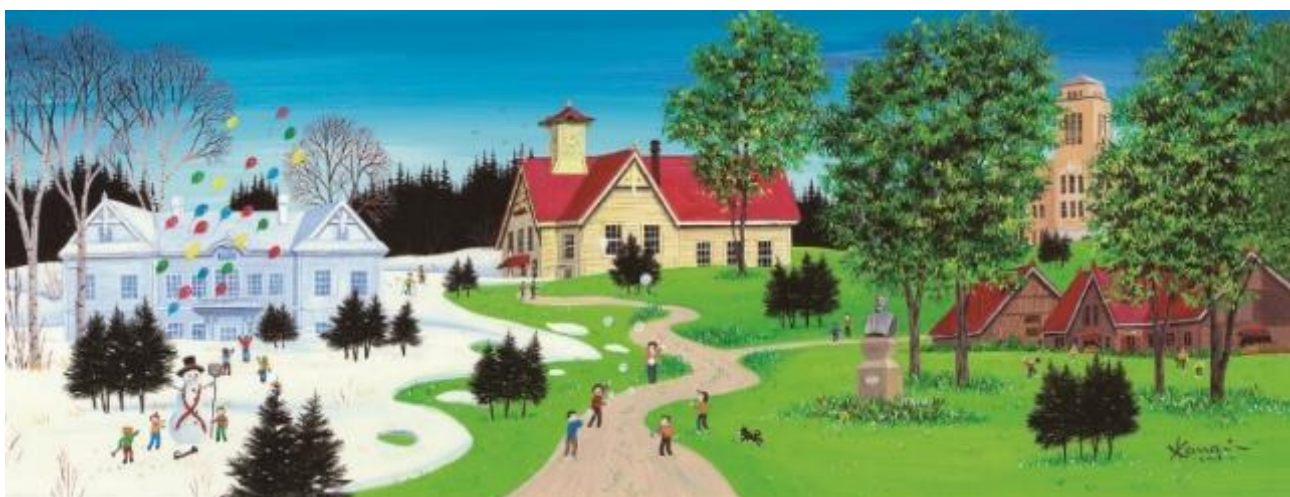
振込口座

北洋銀行	本店営業部	普通口座	0645472
北海道銀行	本店営業部	普通口座	0200230
ゆうちょ銀行		口座番号：02730-8-98355	
		加入者名：公益財団法人札幌がんセミナー	

以上の A、B いずれに該当する寄附であるかご明示いただき、銀行、あるいは郵便局からお振込みいただければ幸甚に存じます。法人は1口5万円以上としております。

私達企業は(公財)札幌がんセミナーの活動を毎年特別支援しています





公益財団法人札幌がんセミナーのシンボル絵画

金井英明さんの作品です。当財団は自然環境に優れた北海道、都市機能の快適な札幌をベースに、人々の健康増進に高い関心を抱きつつ、がんを始めとする疾病の問題を解決するためのいろいろの公益事業を展開いたしております。この絵画には以上のようなイメージが描かれています。

編集後記

本号では、秋田弘俊氏に「たばこをめぐる問題」について取り上げていただきました。「たばこは百害あって一利なし」これは、誰もが認めているところだと思います。実際、日本における喫煙者数もたばこの消費量も年々減少しているようです。それでも、年間約19万人の日本人がたばこによって命を落としているとのことです(たばこによる超過死亡)。また、健康問題だけでなく、たばこに関する疾患は、患者さんの医療費や介護費(タバコによる超過医療費・超過介護費)だけでなく、労働力の損失といった面でも、日本の経済に負の影響を及ぼしています。一方、たばこによる税収はたばこによる超過医療・介護費を賄える程度の財源となっているようです。これらのことを踏まえて、秋田氏は、『喫煙をめぐる問題は、生命の価値と社会の在り方を映し出す鏡』であると強調されています。国がなんとかしてくれるだろうではなく、国民一人一人が我が事として、がんを正しく知り、がん予防対策に向き合わなければならない時代が来ているのだと改めて考えさせられました。

(北海道医療大学看護福祉学部
特任教授 濱田 淳一)



The Way Forward No.29 への率直な
ご意見、ご感想をお寄せ下さい
<https://forms.gle/gEKc3oDqw82N8p3m7>



SCS コミュニケーション The Way Forward 未来への挑戦

Communication with the Sapporo Cancer Seminar Foundation

内閣府所管 公益財団法人 札幌がんセミナー SCS コミュニケーション No.29

発行日：2026年6月1日

(次号は2026年12月1日発行予定)



発行：(公財)札幌がんセミナー

〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目
北海道医師会館6階

TEL：011-222-1506 FAX：011-222-1526

E-mail：scs-hk@phoenix-c.or.jp URL：https://scsf.info



YouTube



広報委員：濱田 淳一 (委員長、担当理事)

岡田 太

瀧本 将人

編集協力：及川智江、小林 博

印刷製本：(株)プリントパック